



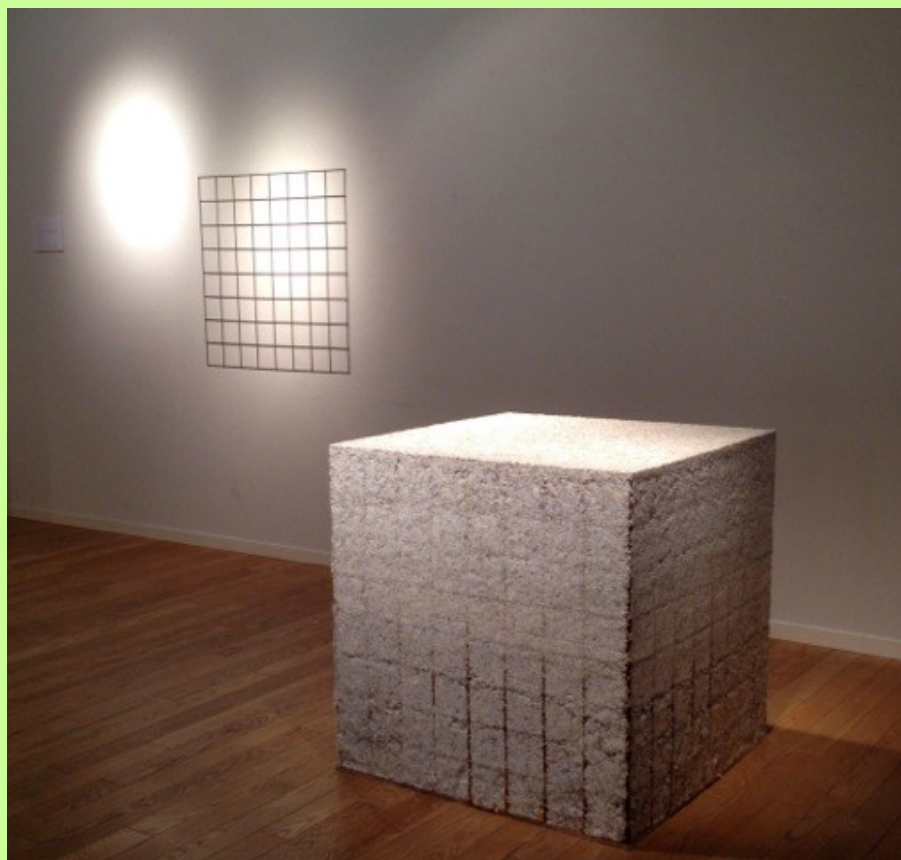
# いずみ

No.55

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 25



《現象界—滲—》

藤本 和彦

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 25 作者の言葉

「現象界—滲—」—ものものの結び付きから生じる現象や状況も、意識しなければ、気付かず、意味をなさない。そこに発端や原因が必ずあるが、「時間」も合わせて正面から、変化変質を受け入れることでようやく動き始める。敏感でいたい。

(藤本 和彦)

タイトル：「現象界—滲—」

制作年：2014年

素材：シュレッダー紙片、ワイヤー  
メッシュ

サイズ：W240×D160×H150 cm

(作品空間サイズ)

設置場所：作者蔵

## 連載 宮の森の四季 び

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 「ハロー！ミュージアム」

館長 池田悦子

彫刻美術館には年間を通して多くの小学生が来館します。なかでも「ハロー！ミュージアム」では、今年度 23 校 1357 人余りの児童が当館で鑑賞活動を行いました。この事業は、子どもたちに優れた芸術を鑑賞するなどの創作的活動に取り組む機会を提供することにより、文化芸術を愛好する心情と豊かな情操を養うことを目的として、札幌市内小学 5 年生を対象に札幌市の助成を受けて実施している事業です。

「はっけん！カード」を手に、キラキラした目で元気にやってくる児童に、私から必ず話があります。それは「同じ学年学級の友達と一緒に来たことを大切にしてほしい。」ということです。彫刻美術館も含め、美術館・博物館に行ったことのある児童がどれほどいるのか質問してみますと極僅かです。そんな児童にとって美術館は敷居の高い所であってはならないし、ひとつひとつの作品の情報を全て覚えなければならない難しい所でもないのです。ですから児童には、「きっと好きな作品や気になる作品があるはず。どのように感じたのか、またどんなことをもっと知りたいと思ったのか、是非友達とそれを交流してください。鑑賞を通して色々な考え方や感じ方があることに気付くはず。」と話します。児童は多くの発見をしたり、友達の意見に共感したりして充実した時間を過ごし、「また来たい！」と言っていきます。私たちにとっても、「ハロー！ミュージアム」を通してよい時間を提供することができるだけでなく、「また来たいと思う美術館とは？」のヒントを得られる絶好の機会でもあるのです。



## 大砲や軍艦になった彫刻

札幌市立大学非常勤講師  
亀谷 隆 (会員)

大学生時代、教授より東京国立博物館の金仏修復室で研修生として技官から指導を受けるようにと言われ、修復を学ぶ機会を得た。

修復として持ち込まれる像の中には、一般に「金銅仏」と呼ばれていたこともあり「金」が含まれていると思ったのか金鋸で像の指を切断した仏像もあった。

同じようなことが国家的に行われたのは、昭和 14 年 (1939) ~ 20 年 (1945) にかけて世界を巻き込んだ第 2 次世界大戦で、日本は昭和 16 年 (1941) 8 月に金属回収令を、翌年 5 月には期日指定の回収令を公布し寺院の仏具、梵鐘などに強制譲渡令を発動した。

戦争に必要な大砲や軍艦を作るのに不急品以外の鉄や銅が必要となったため、屋外彫刻調査保存研究会の調査ではブロンズの彫刻も多数含まれていた。

道内のうち札幌市に限ってでは、大正 15 年 (1926)、北海道大学創基 50 年記念として構内に設置した開拓使農学校教頭のクラーク像 (当時・田嶋碩朗作、現在・加藤顕清作)、昭和 4 年 (1929) 札幌駅前に設置した鉄道功労者のクロフォード、松本荘一郎、平井晴二郎像 (水谷鉄也作)、昭和元年 (1927)、社内に据えた丸井百貨店創業者の今井藤七像 (当時・武石弘三郎作、現在・加藤顕清作)、明治 36 年 (1903)、大通公

園に設置した北海道開拓使長官であった黒田清隆像 (当時・長沼守敬作、現在・雨宮治郎作)、昭和 7 年 (1932)、北大構内に設置した北海道大学初代総長の佐藤昌介像 (当時・加藤顕清作、現在・加藤顕清が再作)、明治 42 年 (1909)、大通公園に設置した北海道庁二代長官の永山武四郎像 (久留之助作) などが、国の命令として戦前に供出された。

この他の市町村で供出にあった彫刻は、昭和 4 年 (1929)、層雲峡温泉を含む地域で河川治水に功績のあった荒井初一郎像 (当時・田村審火作、現在・別作)、昭和 2 年 (1927) 小樽市の実業家であった板谷宮吉像 (当時・武石弘三郎、現在・台座のみ)、大正 7 年 (1918)、開道 50 年記念として小樽市公園内に北海道庁四代長官の北垣國道像 (作者不明) などである。

なかでもクラーク像の供出では、北大予科生らは像を盗み、戦争が終わるまで守り続けようとりヤカーで運ぼうとしたが、余りにも重たくて持ち出すことが出来なかったと、60 年を経た平成 17 年 (2005) に当事者が明かしたという。

仏像にせよブロンズ彫刻にせよ、立体造形として作者が伝えたい表現が重要であるとすれば、そう簡単に傷めたり、失ったりは出来ないと思う。

## 表現者と鑑賞者が共有する場を目指して

「ギャラリー門馬」主宰 大井 恵子

私はギャラリーを運営している。築50年のこのギャラリーは私の両親への記憶がいっぱい詰まった個人邸だったので、住居の面影を残しながらも、内部空間は四角いホワイトキューブの要素を十分に保った重層的なの特徴である。私は家族の物語を紡いできたこの空間で、生身の作家とそれを観る人々の間でドラマを作りたいと願っている。

ギャラリーは作品と観客がいて初めてその空間が成立する。作品は独自の視点と自由な発想力を持って社会を鋭く見つめるアーティストによって創られる。だから作品が発する価値観も多様性があるし、想像力、精神の自由さがある。観る者は作品の中に同じ価値観を見出す。その時、ギャラリーは作者と観者が作品を通して思いを伝達し合い、共有し合う場となり、日常の流れの位相を変換する装置であると思

っている。

ますます格差社会が広がりそうな現代社会において大切なことは、自分のいる環境の中でいろいろな価値観を見だし、自分の内面を磨いて毎日を充実させることであると思う。アートにはその力があると信じている。

ますます格差社会が広がりそうな現代社会において大切なことは、自分のいる環境の中でいろいろな価値観を見だし、自分の内面を磨いて毎日を充実させることであると思う。アートにはその力があると信じている。



絵を鑑賞するという事は、絵が語る訳ではないので、絵と自分との間にストーリーが生まれ、イメージが膨らむのである。絵を見るには能動的な自分が必要で、その結果、オリジナリティーという価値観の重要性に気づく。

作家の創造性は作品を通じて私たちの日常を豊かにしてくれ、心をも豊かにしてくれる力がある。そんなアートの力を信じて人々はもっと普段から暮らしの中でアートに触れることによって自分の感性を磨き、直感を信じて行動する勇気が生まれ、他の人の価値観も認識できるようになる

だろう。その結果、文化やアートにもっと意味を見出すような豊かな社会になる。そのための役割をギャラリーも担っていると思う。

これからも作家の創造性が作品を通じて最大限発揮できるように「時代を映す空間」として作品と作家の双方に深く関わって、表現者、観者にとって魅力的なギャラリーになるように心掛けていきたい。

**ギャラリー門馬&Annex**

札幌市中央区旭ヶ丘2丁目3-38

TEL 011-562-1055



本郷新記念札幌彫刻美術館&札幌市立三角山小学校がタイアップ授業  
**僕たち「彫刻美術館探偵団」です**  
ギャラリートークから展覧会開催まで体験

大内 和 (会員)



札幌・本郷新記念札幌彫刻美術館で 2 月末、隣接する札幌市立三角山小学校 3 年生が「生き物となかよし」展を開いた。美術館の普及事業の一環として同小学校と協力して 1 年間にわたって行った学習活動「彫刻美術館探偵団」の仕上げの展覧会。美術館と学校が協力し合う教育コラボレーションとしてユニークな教育活動でもある。

「彫刻美術館探偵団」は同小 3 年生の「総合的な学習の時間」の教科の中で 1 年間行われた。前半は「美術館で働く人」をテーマに、館長、学芸員など美術館で働く人がどんな仕事をしているかを勉強。ついで、美術館のメイン展示である彫刻家・本郷新を学ぶ「本郷新ってどんな人」をグループごとに分かれて調べ、美術館を訪れて作品鑑賞も行った。それらの成果は学習参観日に父母などの前で発表した。

これらの活動は「自分たちの住んでいる地域にある施設や人とのかかわりを考え、地域の良さを知ることになり、総合的な学習の教育目的とも合致する。館と学校が近接しているからこそ可能」と、長年の教職経験を持つ池田悦子館長は教育効果を強調する。

2 学期後半からは「子ども学芸員」と名付けて、実際に本郷作品を見学、鑑賞しながら、それらの作品解説などを校長先生や保護者の前で行う「ギャラリートーク」も体験した。作品を見て感じたこと、調べてみたことなどをどのように発表するか、原稿の作成段階では美術館の樋泉綾子学芸員

の直接指導を受けることも。

最後の仕上げが 2 月末に開かれた「生きものとなかよし」展覧会。本当の学芸員はどんなことに注意を払って展覧会を開いているか、展示方法にどんな工夫をしているかを考えながら、作品を展示する高さ、並べる順番、キャプションの書き方などをグループで討議しての会場作り。本館前の掲示板にポスターを張り、父母向けのチラシも作った。

会場は同美術館の本館研修室。彫刻粘土で作

り上げた様々な動物たちの作品が並ぶ。「食事時のパンダ」、「ハリネズミの親子」など、どれも 3 年生 42 人の子供らしいアイデアがあふれる。

三角山小 3 年生担任の佐藤雅裕先生は「実際の場面を通して、話したり、発表の仕方を考えたりする貴重な体験ができ、力を伸ばすまたとない機会」と学習効果を認めており、ユニークな「館・学」コラボレーションの効果は大きいようだ。



グループで作品の展示方法を話し合う子供たち=彫刻美術館提供

## 講演と生演奏

# 2016 年友の会新年会にぎやかに

2016年の幕開けとなる彫刻美術館友の会の新年会が1月31日、札幌・宮の森ミュージアム・ガーデンで行われた。昨年と同じ結婚披露宴会場でもある華やかな雰囲気の中で43人が出席して新しい年の活動を誓い合った。

冒頭、橋本信夫会長が「昨年は全国組織の野外彫刻調査保全研究会とのシンポジウムを通して会の活動が全国に知られることになった。今年も一年、いい汗をかこう」と挨拶した。ついで新年会恒例の幕開け講演会は会員でもある常田益代・北大名誉教授の「襷・身体・布に見る東西」。常田さんは豊富な写真をスライドで示しながら東西の服飾史を通して日本の着物が西洋の彫刻、絵画に大きな影響を与え



たことなどをわかりやすく説明した。

國松明日香友の会顧問の乾杯でパーティーに入り、侵入会員の紹介、スピーチに続き、この日、誕生日を迎えた会員に全員で「Happy Birthday」を歌って祝福するハプニングもあり、会場が盛り上がった。



「チェロとピアノのデュオ」では札幌で活躍中の中島杏子さんのチェロ、岩崎由佳さんのピアノでメンデルスゾーンの「春の歌」をはじめチェロの名曲が奏でられ、重厚な響きが会場に流れた。締めくくりに参加者全員で歌謡曲「高原列車は行くよ」を歌ってお開きとなった。

### 初参加新入会員のひとこと

美術館めぐりが趣味

太田雅人さん

はじめまして。元々美術館巡りが趣味で、WEBでこの彫刻友の会を知り、ぜひ協力したく本年より入会させて頂きました。

彫刻の調査や清掃をみなさまと共にできることを楽しみにしています。仕事で培ったWebの知識でもこの会の活動をサポートしていければと思います。

落ち着いた和やかさ

石田宏子さん

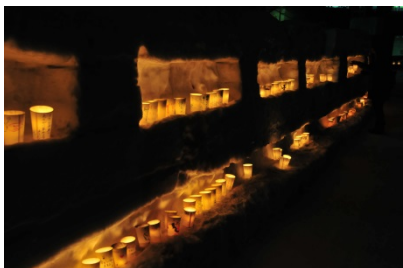
はじめての新年会参加でした。講演とミニ・コンサートの素敵なプログラムが用意されて、手持無沙汰になる心配は無用でした。

食事タイムにはゲストのご挨拶を聞きながらのお料理を。落ち着いた和やかさに溢れる時間は「友の会」らしいと思いました。

## 友の会ニュース

### 第10回ゆきあかり in 中島公園 紙コップに願いを込めて 山鼻小児童が協力参加

厳冬の中島公園を彩る「第10回ゆきあかり in 中島公園」が2月5-7日の3日間開かれ、友の会が「あかりと願いのターミナル」コーナーを支援した。



初日は昨年から協力している山鼻小から3年生の児童90人が授業の一環として参加した。主催者側が用意した紙コップに思い思いの願いや絵を描き雪穴を掘って飾り付けながら「楽しかった」「また来たい」と楽しそうだった。

期間中は午後4時半から3時

間ほど友の会のメンバーが寒さに耐えながら通りがかりの人に紙コップを渡しながら参加を呼び掛けた。若者のカップルや家族連れ、外国人グループが願い事などを書き込んで雪の壁を紙コップのキャンドルで飾った。(長峯慰子)

### 2016年度彫刻清掃計画

日曜日中心に前年並み実施

友の会の年間活動の中心となる彫刻清掃活動の大まかなスケジュールが下記の通り決まった。広く参加出来るように土、日曜日を重点に置いて予定を組んだが、関係機関との調整が残っていて未定のものもあるので多少増加することもある。

▼5月15日＝真駒内駅前広場

▼5月22日＝大通公園西3丁目

▼6月12日＝新渡戸稲造記念公園

▼6月26日＝中島公園

児童館前／近代美術館前庭

▼7月10日＝道庁赤レンガ庁舎前／宮の森緑地／中島公園児童館前  
▼8月14日＝中島公園<母と子の像>  
▼8月24日＝中島公園キッズ・ガーデン  
▼9月11日＝羊ガ丘展望台  
▼10月9日＝大通公園7丁目／近代美術館前庭

### 大通公園彫刻解説板

今年は4基設置

札幌・大通公園の彫刻に設置する解説板の作成を札幌市から委託されている友の会はこれまでに「吉井勇の歌碑」など7基の解説板を作成したが、今年も西5丁目の「聖恩碑」を含め残りの9基の解説板作成を手掛けている。

すでに田畑一作《漁民之像》、雨宮治郎《黒田清隆之像》野々村一男《ホーレス・ケプロンの像》などの解説文とその英訳も完成。近く市に提出する予定。

## 札幌彫刻美術館友の会 2016年度総会

5月7日(土) 13:30から 札幌市民ホール2階

終了後引き続き講演会 (14:30-15:30) 一般参加歓迎

講師: 國松明日香氏(彫刻家)

「自作を語る一風景の彫刻から観念の造景へ」

## 事務局日誌

▼12月10日＝定例役員会(エルプラザ)新年会準備、新年度活動体制見直▼17日＝石川佐和子札幌市議と懇談(札幌市役所)友の会の活動現況について▼19日＝V-netティーパーティーに会長ら参加▼28日＝会報55号発送▼1月11日＝定例役員会(エルプラザ)新年度活動体制見直問題、新年会準備▼31日＝2016年新年会(宮の森ガーデン)常田益代会員が講演▼2月5-7日＝ゆきあかりIN中島公園(中島公園)▼11日＝定例役員会(エルプラザ)総会日程協議、大通公園彫刻案内板作成について▼18日＝北海道地域ネットワーク協議会(北大学術交流会館)橋本会長講演

## 編集後記

▼友の会の現状を話し合っている時、ある人が「坊やだった友の会もずいぶん大きくなった」と述懐した▼なるほど今年は35歳の誕生日を迎える。働き盛りの年代だ。身も心も年齢相応だろか。会の新しい体制を考える動きが出ている。みんなが参加できる仕組みができればと思う。(大内)

札幌彫刻美術館友の会  
会報「いずみ」 No.55

2016年4月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」55号 目次

自作自選25《現象界―滲―》	藤沢和彦	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季25「ハロー！ミュージアム」	池田悦子	2
風見鶏「大砲や軍艦になった彫刻」	亀谷 隆	3
寄稿「表現者と鑑賞者が共有する場を目指して」	大井恵子	4
レポート「僕たちは彫刻美術館探偵団」	大内 和	5
友の会ニュース		6-7
2016年友の会新年会 初参加者のひとこと ゆきあかり in 中島公園		
新年度彫刻清掃計画 大通彫刻解説板作成		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本 館

#### ■コレクション展

「お母さん大好き！」 4月16日[土]～7月3日[日]

関連事業として「母の日」に合わせたワークショップ

「親子のダンス」を行う。詳細は美術館へ問い合わせ。

#### 同時開催

「In my room vol.11～12」

出品作家 vol.11 宮下真理子 (4月16日～5月22日)

Vol.12 菊池さくら (5月24日～7月3日)

### 記念館

#### ■常設展示

開館35周年記念「本郷新と札幌彫刻美術館」

通年の展覧会とし、本郷新の人となりや制作姿勢、札幌彫刻美術館の成り立ち、作品、制作道具、写真などの資料を通して本郷新と美術館への理解を深めてもらう。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>